



R06.02.01 / 袋井新産業会館キラットあきはホール
第2回ビジネス機会創出模索のための異業種交流会「認知症」

ふくろい産業
イノベーション
センター

ふくろい産業イノベーションセンター ニュースレター Vol.29

発行日：令和6年2月8日（木）

発行者：ふくろい産業イノベーションセンター事務局

第2回ビジネス機会創出模索異業種交流会 「認知症」開催～“課題の本質”とは何かを探る～

地域の“困りごと”（課題）を地域内の異業種が連携して解決を目指すとともに、ビジネス機会の創出にもつながる“仕組み”への発展可能性を模索するため、袋井南部地域包括支援センター（地域高齢者の健康・生活を包括的に支援する組織）との共催で、第2回目となる「認知症」をテーマとした異業種交流会を開催。約30人が参加し、第1回目に出された課題の深掘りを行いました。

はじめに、前回発掘した3つの課題「認知」「見守り」「情報共有」の具体的な状況・場面を特定していくため、認知症当事者のご家族に対し、グループインタビュー形式で再度お話を伺うとともに、それを踏まえて“課題”の本質を探るグループワークを実施。課題解決に必要な「論点」を抽出しました。

今後は重点的に議論すべき「論点」を整理した上、「デジタル技術の活用」「デザイン性」「簡便性」の3つの視点から“課題解決の方法”を考える機会・場を設けてまいります。

意見要旨

●介護者の負担をいかに減らしていくか。そのためには、介護者の“声”を丁寧に拾い上げ、支援を行う仕組みが必要。また、介護者が被介護者の「客観的情報」を持つことも大切なポイント。

●被介護者の状態は、本人の心理状態に大きく左右される。介護者の負担低減につなげていくためにも、被介護者の“気持ち”を安心・安定させることはとても重要。被介護者の“不安感”をいかに無くすか、緩和につなげていくか。デジタル技術の活用などにより、そういう仕組みや仕掛けが実現できれば良い。

●「認知症とはどのようなものか」について、地域や社会全体で理解を深めていくことも不可欠。
また、当事者のみならず、「認知症になりそう」という不安を抱えている、いわゆる”予備群”の人を対象に啓発をしていくことも、予防や事前対策といった観点から有効ではないか。そのためには、行政をはじめ、支援機関、あるいは学術機関や産業関係者など、それぞれが課題を共有して役割分担を行うとともに、有機的に連携して取り組んでいくことが肝要。

出席者一覧 ※敬称略・順不同

認知症当事者ご家族(2人)	笑話の集い(地域支援者)	民生委員(地域支援者)
株式会社ジャストワーク	株式会社モア・リビング	有限会社エム・エス・イー
袋井南部地域包括支援センター	袋井市総合健康センター健康長寿課	浜松いわた信用金庫
島田掛川信用金庫	ふくろい産業イノベーションセンター	

前回
(11/14)

↓ **今回はここ(課題の本質を考える)**



お問い合わせ・相談窓口 **ふくろい産業イノベーションセンター**

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2(静岡理工科大学 やらまいか創造工学センター3階)
TEL:0538-45-0136(直通)/FAX:0538-45-0110/E-mail:shakai@sist.ac.jp